北九州市立文学館 ニュース

文学の栞（しおり）

Kitakyushu Literature Museum News

第27号

2020年4月1日発行

文学館が新しくなりました。

館長　今川　英子

開館以来十三年ぶりに常設展示を中心に改修、文学館が新しくなりました。

従来の展示は、昨年プリツカー賞を受賞した磯崎新氏の建築の特徴を生かしつつ、湾曲する壁面二十五メートルに、明治から昭和末年までの北九州における文学活動の年譜を掲示するとともに、ケース内で関連資料を紹介してきました。明治以降、重工業都市として発展する過程で、周辺から集まった多くの勤労者による自己表現の一つとしての文学、その展開と様相をいわば群像として示したのが先の展示でした。

新しい展示では、代表的な作家六人に焦点をあて、そのほかの作家や作品は、散文（小説）、詩、俳句などそれぞれ分野別のあゆみの中で紹介しています。開館当時八千点しかなかった資料が今や十二万点を数え、点でしか語られなかった文学史が面となり、物語として叙述できるようになったのです。そして何よりも現代作家の多面的な活躍。純文学からエンターテインメント、時代小説や児童文学など様々な分野で多くの読者を得ている作家の何と多いことか。彼らの作品をどしどし発信していきたいと思います。

作家による経験やそれをもとにした思索の跡の刻印が文学作品だと言います。また作家は自らが育った風土からは自由になれず、特に作品の舞台になった場合には、その土地固有の歴史や風土、そこに住む人々の暮らしや仕事、考え方や価値観などが色濃く反映します。それこそが土地の記憶であり、それを知り、想像力をかき立て、考えることなくしてはこの街や自らの未来を語ることはできません。展示では、少しでも未来を担う若い人たちの読書の糸口になればと、限られた空間ではありますが、できるだけ解りやすく、漢字には振り仮名を付け、小学生高学年にも理解できるように努めました。

ところで新型コロナウイルス感染拡大予防のため、文学館は現時点では休館を余儀なくされています。感染症の猛威は測り知れず、収束までに三年かかるとか、九十年前の世界大恐慌にも似た不況になるとか、いずれにせよ将来的には〈コロナ前コロナ後〉という認識がなされると言われています。科学の発達は今や最先端にまで達し、人々は自由や豊かさを手に入れたはずでしたが、巨大地震も異常気象も病原体も克服できず、いかに現代文明が脆弱であったかが露呈されています。

カミュの「ペスト」を読み、改めて人間存在の不条理を突きつけられながら、いつの時代にあっても生と死が隣り合わせであることを謙虚に思いつつ、文学の力を再認識しているところです。

目　次

文学館が新しくなりました。……1
13年ぶりの展示リニューアル……2～4
リニューアルオープン記念　収蔵品展『北九州の文学者』……5
第11回　子どもノンフィクション文学賞……6
第10回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式
第6回　林芙美子文学賞……7
小冊子「わたしたちのまちの文学」
北九州市立文学館文庫16『横山白虹句集』
お祝い・令和元年度下半期「偲ぶ会」
展覧会開催予告……8
絵本作家・いわむらかずおの世界（仮）
日本SF　文学クロニクル
寄贈者・提供者、提供雑誌

13年ぶりの展示リニューアル

北九州市立文学館は、開館から13年の時を経て、２０２０年春にリニューアルしました。

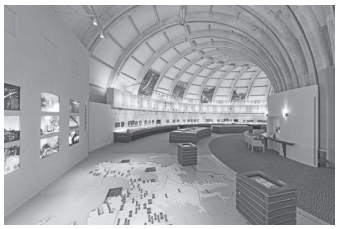
展示の固定化、若年層の利用の少なさ、外国人観光客の増加など、当館が抱えていた課題を、どのように展示に反映させていったのか、職員が感じた、生の声を皆さんにお届けします。

事業削減せずに準備スタート

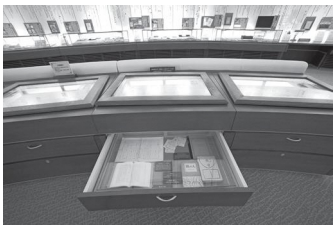
２０１８年度までに有識者を交えて協議を重ね、基本計画から実施設計を終えた当館は、２０２０年春のリニューアルを目指して準備を進めました。施設の立ち上げは、仕事量が多いので、本来、他の事業を軽減して取り組むのが一般的です。しかし、当館では、響ホールで宗左近生誕１００年記念事業、美術館分館で倉本聰の企画展、子ども図書館で芥川賞作家村田喜代子さんの文学講座全７回、と例年と変わらない事業を展開しました。休館中も情報を発信し続けるため、職員は、２つの文学賞や詩のコンクールの主催、文学館文庫の発行など、例年通り事業を担当しつつ、リニューアルに取り掛かることになります。多くの不安を抱えてのスタートになりました。

【before】

リニューアル前の壁面は、年表形式で、上部には、北九州らしく同人誌の表紙が陳列されていた。



磯崎新設計による泉のような梁を中心に、レイアウトされた展示。低層空間を活かした展示だった。



展示ケースをのぞき込む文箱展示は、下部の引き出しにも資料が展示されているユニークな手法。引き出すことで発見したような探検気分が味わえた。

新たな常設展示のコンセプト

展示業者を交えた本格的な段取りは、梅雨明け頃から始まりました。

これまで壁面展示は、年表形式で時代ごとに文学者を紹介したものでした。また、引き出しタイプの展示（文箱展示）は、ユニークでしたが、車いす利用の人には利用しづらいものでした。それらを見直して、全国的に高い評価を受けているゆかりの文学者と、短歌、俳句、詩などの分野別の文学史を紹介するエリアに分けました。このコンセプトを基に、展示資料やパネル掲載資料の調整を進めます。

はじめに、当館からアイディアを業者にぶつけつつ、ベースとなる文字、写真を入稿します。全国の博物館や文学館を企画運営してきた業者は、当館のアイディアを基に形にしていきます。業者から提示された初案を基に、フォントや大きさ、文字数、写真の点数など個々の要素を整理し、当館の空間にあわせて調整、入稿へと仕上げていきます。

しかし、次第に無間地獄に陥ります。多くの情報を紹介したい当館と、デザインのバランスを調整したい業者。この葛藤は、どの展示エリアでも起き、職員は一歩進んでは、二歩下がることの繰り返しが続きます。最終的な着地点は、予定にない７、８校正目あたり。まもなく、年が明けようとする頃でした。

最後まで粘り強く調整した甲斐あって、丁寧で分かりやすい解説はもちろん、写真や資料を多く取り入れたパネルにはふりがなをふり、文字の大きさやケースの高さまで、誰もが見やすいように、配慮した展示となりました。一部の展示は、定期的に入れ替えるなど、展示を固定化させない取組みも行います。

【after】

新しい展示エリア。展示室の中心に分野別の５つの展示ケースが放射線状に立体的に並ぶ。

工事は音との闘い

本格的な工事を始めるため、２０１

壁面には、代表的なゆかりの文学者６人を紹介。

9年9月休館に入りました。

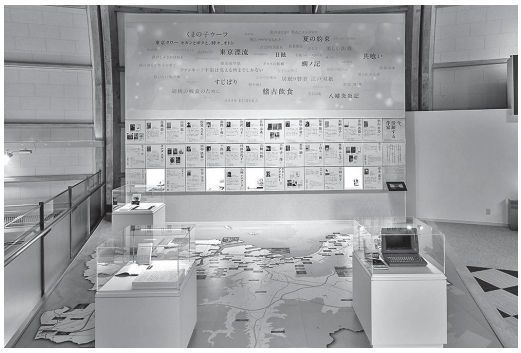
最初の着手は、入口を封鎖しなければならないトイレ工事です。1974年の建築物なので、トイレも昭和感が否めません。障害のある人には、不便な狭さで、トイレの入口が展示側にあるため、利用するたびに、館内にフラッシュ音が響いていました。

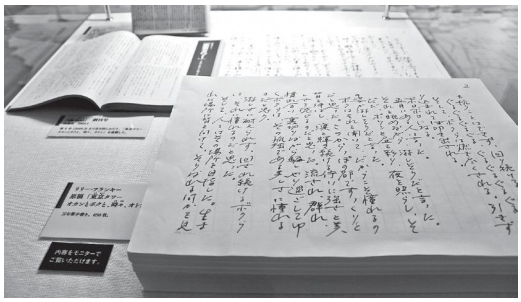
これらを解決するため、市建築都市局と協議します。同じ空間に、ベビーベットやオストメイト、温水シャワーつきのトイレの提案を受けました。フラッシュ音軽減は、トイレ入口の移動などにより解消する妙案でしたが、同時に工事の音に悩まされることになります。

文学館は図書館と子ども図書館からなる複合施設です。文学館は工事のため休館中でも、図書館は開館中。壁ひとつ向こう側では、静かな学習室を求めて通う学生などもたくさんいます。大きな音を出すわけにはいきません。

明治以前、短歌、俳句・川柳、散文、児童文学、詩の分野別にゆかりの文学者を紹介。

最新設備を備えた多目的トイレは車いすでも楽に移動できる十分な広さを備える。


今、活躍する北九州ゆかりの35人の作家が大集合。この人も北九州出身⁉と驚く人も。


リリー・フランキーさんの自筆原稿。

〈オリジナルグッズ〉一筆箋やマスキングテープ、鉛筆、クリアファイル、ポストカードが仲間入り。

そこで、大きな音を伴う工事は、図書館休館日に行いました。平日作業は、緊張の連続です。小さな音の場合は、職員が学習室に待機し、音の響きをうかがいながら、工事を進めました。

この音対策は、リニューアル工事が終わるまで、最重要課題となりました。

初登場、今、活躍する作家コーナー

文学館は元来、ゆかりの文学者を顕彰して次世代に継承する施設で、物故者中心に紹介してきました。ゆえに、若い方たちが近寄りがたかったのかもしれません。そこで、若年層の利用促進に向けた取り組みとして、現在、活躍している作家の方々を紹介することにしました。例えば、芥川賞作家の村田喜代子さん、平野啓一郎さん、時代小説の佐伯泰英さん、テレビでもおなじみのリリー・フランキーさん、松尾スズキさんなど、いずれも、テレビや書店などでなじみの深い方ばかりです。これら様々な分野で活躍する人のゆかりの作家を紹介するコーナーを今回初めて設けました。

作家の皆さんには、展示資料をお借りする際、快く応じていただきました。愛用の眼鏡、腕時計など、当時、身に着けていたものや、作家活動で使用していたワープロやボールペン、自筆原稿、イラスト、受賞の案内などの多彩な資料があり、初回展示できなかった資料は、今後、定期的に入れ替えていきます。

展示のひとつ、リリー・フランキーさんの自筆原稿は、原稿用紙に青色のインクで書かれた美しい文字が印象的です。手書きにもかかわらず、追加や削除などの修正がほとんどありません。この自筆原稿をデジタル画像で42頁分見ることができます。これは、新しく導入した〈デジタル展示システム〉によります。

利用満足度とサービス向上のために

今回のリニューアルは展示の見直しだけでなく、来館者の利用満足度向上とサービスを充実させるために、様々な取組みを行いました。例えば、ホームページリニューアル、〈オリジナルグッズ〉の作成、〈多言語の館内リーフレット〉、〈子ども向け冊子〉の発行、〈文豪名刺〉のプレゼントなどです。中でも、収蔵品管理システムの更新により、新たなサービスの提供ができるようになりました。

これまでのシステムでは、当館所蔵資料の文字検索しかできませんでした。新たなシステムでは文字検索だけでなく、作者名一覧が表示され、使いやすくなりました。加えて、来館者向けに、〈デジタル展示システム〉と多言語音声ガイドが利用できるようになりました。

〈デジタル展示システム〉は、もと

もと、実施設計段階で企画していましたが、高額な開発費がかかることで、導入を断念していました。しかし、9月に別の業者の収蔵管理システムと連動させたかたちで実現に向け、再び動き始めました。

デジタル展示システムの導入

資料は通常ケース内に展示しますので、内部を見ることはできません。しかし、今回、文学館でも〈デジタル展示システム〉を取り入れ、いくつかの展示物の中身が見られるように工夫しました。これまで研究者など一部の人しか見られなかった貴重な資料を、誰もが自由にページをめくったり、拡大したりして見られるのがこのシステムです。前に述べた42頁もの自筆原稿が閲覧できるのも、このシステムのおかげです。

このシステム導入が、リニューアル関連の最後の工事になりました。これにより、すべての事業が完了したのは、3月に予定していた記念式典の延期が決まった頃でした。やり終えた満足感と、予定通り開館できない現状に、ここまで走り続けたきた職員は、複雑な気持ちでいっぱいになりました。

一階の無料エリアも一新

常設展示以外の無料エリアも一新し、外国人観光客や子どもたちも楽しく学べるつくりになっています。

エントランスでは、ゆかりの作家の作品の文章と北九州の風景が軽快に映し出される壁面が、皆さんをお出迎えします。映像を眺めているだけで、北九州の自然や街並みの美しさ、故郷を書き記した作家の気持ちなどが自然と伝わって来るようです。

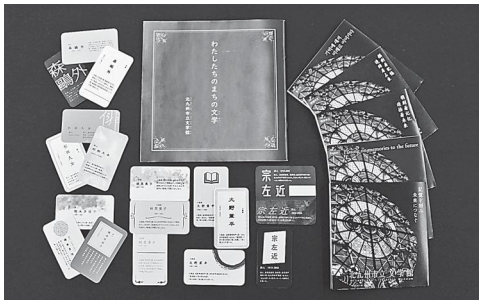
向かい側の〈広がる文学〉のコーナーでは、世界中で読まれているゆかりの作家の翻訳書を紹介しています。平出隆さんの「猫の客」は世界22カ国で出版され、ほぼ全冊閲覧できます。また、展示エリアを多言語で音声案内するシステムも導入しました（下記コラム欄参照）。

〈俳句パズル〉は、杉田久女と橋本多佳子の詠んだ句の中から、30句を選定。5、7、5に分けた90ピースを組み合わせて、オリジナルの一句を仕上げるものです。

ステンドグラス前の空間も鉄骨がなくなり、広々とした空間に生まれ変わりました。ここでは文学講座や音楽会なども開催していく予定です。ステンドグラス前での記念撮影もOKです。

ほかにも、同人誌・文芸誌の閲覧ができたり、本市が行う文学賞の紹介、当館の所蔵資料の検索、ミュージアムショップもすべて無料エリアにあります。

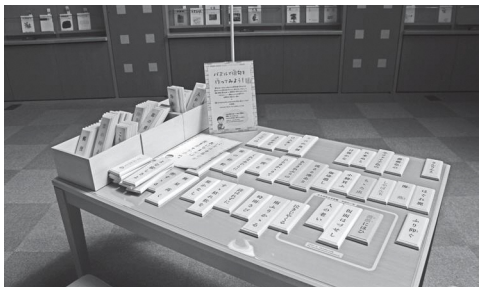
新たな文学館は、たくさんの魅力にあふれています。開館時には、ぜひ、リニューアルした文学館にお越しください。職員一同、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



〈文豪名刺〉と〈小冊子〉「わたしたちのまちの文学」は有料入館者にプレゼント。

〈デジタル展示システム〉は、貴重な資料の内部を見られる。

〈広がる文学〉39カ国で読まれている70作品を紹介。ほかに知っている本があれば教えてね。



〈俳句パズル〉やり始めたら止まらない、中毒性のあるパズル。よい作品はSNSにアップ。

多言語による音声ガイドシステム

お手持ちのスマートフォンを利用して、館内の展示エリアの音声案内を聞くことができます。

スマートフォンのアプリから「ポケット学芸員」(Pocket Curator)（無料）をインストールすると、館内の案内表示に合わせて、日本語での解説のほか、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語でも展示エリアの解説を聞くことができます。会場に配置された番号に合わせて、お楽しみください。

なお、インターネットを通じて利用するため、4Gなど接続できる環境でご利用ください。また、事前にインターネットからダウンロードしておくと、テキスト解説のみ非接続で見ることができます（音声は接続が必要です）。事前に情報を見てお越しいただくと、より深く文学館を楽しめます。

ios をお使いの方はこちら↓

android をお使いの方はこちら↓

館内には12箇所の説明ポイントが設けられている。英語、中国語、韓国語でも聞くことができるので、外国からのお友達に紹介してね。

リニューアルオープン記念 収蔵品展「北九州の文学者」

令和2年3月20日～5月10日

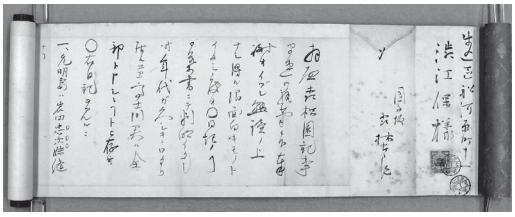
※7月5日まで開催を延長いたします。

リニューアルオープンを記念し、常設展で主に取り上げた六人の文学者の収蔵資料を紹介する展覧会を開催します。これまでの企画展で紹介してきた原稿、書簡、短冊、色紙などの自筆資料のほか、初公開資料や新たな収蔵資料も加え、約160点を展示しました。

《展示資料ピックアップ》

森鷗外：渋江保宛書簡（一九一六年一月一九日付）

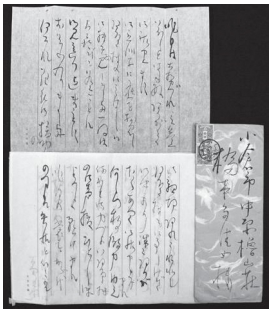
当時「大阪毎日新聞」「東京日日新聞新聞」に連載中の「渋江抽斎」について、関係人物の系図を報告、連載が始まって間もない作品をできる限り面白いものにしたい、と抱負を述べている。「渋江抽斎」は弘前藩の医官・考証学者、抽斎渋江道純の伝記小説。渋江保（翻訳家・著述家）は抽斎の息子で鷗外への資料提供者だった。鷗外は執筆のため、保に調査依頼や問合せなど三〇通以上の書簡を送ったことが分かっている。



杉田久女：橋本多佳子宛書簡（一九三二年八月一九日付）／七枚

※初公開資料

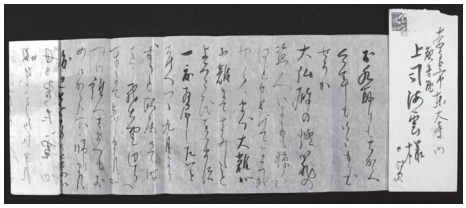
主宰誌「花衣」の廃刊直前に書かれた。大勢で櫓山荘を訪ねたことの礼、「花衣」九月号に葛の雨の文章を二人で書こう、など述べている。多佳子は「花衣」五号に随筆「葛の雨」を寄稿した。久女が「廃刊について」を記したのは八月二八日。手紙が書かれた時点では、「花衣」の刊行に意欲的だった。



橋本多佳子：上司海雲宛書簡（一九六二年二月一五日付）

※初公開資料

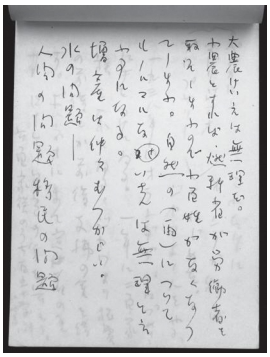
東大寺大仏殿の八角灯籠の一面が盗難に遭ったことの見舞い。病臥しているが「も一度元気になりたい」とある。里見弴「多情仏心」や泉鏡花の作品についても。上司海雲は東大寺別当を務めた僧で、随筆家としても知られる。志賀直哉をはじめ作家、芸術家と交流した。



林芙美子：南方従軍時のメモ帳

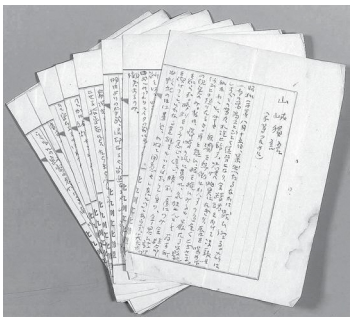
※初公開資料

太平洋戦争中、陸軍報道部の要請に応じた「南方視察」に赴いた折のメモ帳。昭和一七年一〇月に日本を出発し、翌年五月に帰国した。メモ帳の前半は現地の言葉と読み方を書き留めた内容。後半は、オランダの植民地支配の歴史などについて記載している。



火野葦平：山峡独語（子らのために）（一九四五年八月二六日付）／二二枚

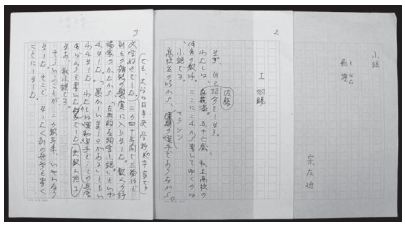
終戦を迎えて書かれた遺言書。自分はこれまで信じてきた道と運命をともにする覚悟であること、未来は子どもたちに託すことなどが記されている。



宗左近：原稿「小説 飛旗」／一六枚

一九九九年の日録に挟み込まれたもので、その頃の執筆か。未発表。

主人公が千葉県市川市に住む作家・立花十郎の講演内容を記した小説。立花のモデルは宗で、自身の故郷、戸畑について語る内容となっている。同年、宗は北九州や九州の地名を詠みこんだ中句集『響灘』を刊行、二〇〇三年には自伝的小説「故郷の名」を発表するなど、故郷北九州を題材にした作品を書いた。



第11回　子どもノンフィクション文学賞

第11回を迎える子どもノンフィクション文学賞は国内外から、小学生の部は375作品、中学生の部は309作品、計681作品の応募がありました。

例年、3月に文学館にて、表彰式を行っているところですが、今年度は、新型コロナウイルスの感染対策のため、残念ですが、中止となりました。

表彰式では、北橋市長や最終選考委員の那須正幹さん、最相葉月さん、リリー・フランキーさん等から盾と副賞の手渡しや、最終選考委員の皆様からの講評、合唱団によるミニコンサートが予定されていました。

最終選考委員の皆様から、「筆力も十分だし、ストーリー性もある」「他者に対する想像力が深く、病に支配されない自由な精神」「生の言葉が聴けたことが作品の厚みを増していた」「（体験談を）最後まで聞き書きした筆者の情熱に感動した」「生々しく緻密な現在形の語りが胸に迫る」「体験したことを書くだけでなく、調査まで進んでいる」などの講評をいただいています。これらの講評も、作品集に掲載されていますので、子どもたちの素晴らしい作品を是非お読みください。

受賞者　小学校の部（敬称略）

大賞＝前田海音（北海道伏見小学校）佳作＝田村萌梨（鳥取県鹿野学園）日髙実生（東京都聖学院小学校）那須正幹賞＝遠藤光之佑（埼玉県西武学園文理小学校）最相葉月賞＝井平夏鈴（兵庫県波賀小学校）リリー・フランキー賞＝増山優雨（埼玉県西武学園文理小学校）学校賞＝ＬＣＡ国際小学校、寝屋川市立第五小学校、福岡雙葉小学校

受賞者　中学校の部（敬称略）

大賞＝酒井淳一郎（東京都京華中学校）佳作＝座間耀永（東京都青山学院中等部）田中惣真（徳島県徳島文理中学校）那須正幹賞＝田村綾梨（鳥取県鹿野学園）最相葉月賞＝熊田　和真（大阪府北陵中学校）リリー・フランキー賞＝新池谷悠（群馬県第一中学校）学校賞＝お茶の水女子大学附属中学校、鳥取大学附属中学校、文化学園大学杉並中学校。

作品集（令和元年度）

文学館ホームページにて掲載予定。

令和元年以前の作品集は、公開中です。

令和2年度募集（予定）

400字詰め原稿用紙で、小学生の部は3～20枚、中学生の部は5～50枚以内。（縦書き）。締切は11月末。

詳しくは文学館ホームページ

（http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/）に掲載予定。

第10回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式

令和元年12月14日

文学館では、本市出身の詩人　宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもの豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールを平成21年度から実施しています。

第10回目を迎える今年度は、宗左近生誕100年の年でもあり、特別賞として、「宗左近生誕100年記念賞」を新たに設けました。市内外から1，044作品もの応募がありました。

表彰式は、文学館が展示リニューアル作業により休館中のため、子ども図書館大研修室で行われ、最終選考委員の平出隆さんによる講評や、最優秀賞受賞者による詩の朗読が行われました。

また、表彰式終了後に髙山保材さん指揮の北九州市小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが行われました。

受賞者　小学校の部（敬称略）

宗左近賞＝匿名（北九州視覚特別支援学校）みずかみかずよ賞＝重村空歩（鹿児島県南指宿中学校）宗左近生誕100年記念賞＝稲田麻璃（篠崎中学校）市長賞＝木村有希（則松中学校）市教育長賞＝重藤和人（九州国際大学付属中学校）文学館長賞＝匿名（鹿児島県南指宿中学校）佳作＝10名

学校賞＝三郎丸小学校、皿倉小学校

受賞者　中学校の部（敬称略）

宗左近賞＝高岩恭子（敬愛小学校）みずかみかずよ賞＝片岡莉央奈（高見小学校）宗左近生誕100年記念賞＝中村紗朱（湯川小学校）市長賞＝小田孝太朗（足立小学校）市教育長賞＝上田蓮翔（三郎丸小学校）文学館長賞＝石田拓夢（西小倉小学校）佳作＝10名

学校賞＝黒崎中学校、九州国際大学付属中学校

令和2年度募集（予定）

400字詰め原稿用紙の縦書き、手書き3枚以内。締切は9月末（予定）

詳しくは文学館ホームページ

（http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/）に掲載予定。

表彰式での記念写真

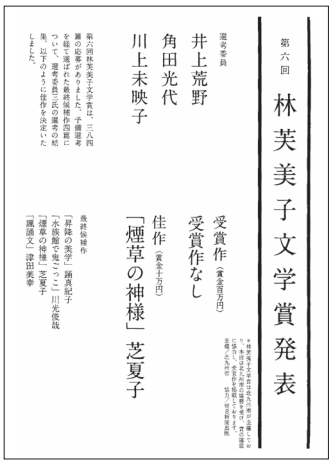
第6回　林芙美子文学賞

令和2年1月24日

第6回林芙美子文学賞の受賞作が、決定いたしました。

全国から寄せられた384編の応募作品の中から、最終選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんにより、残念ながら受賞作はありませんでしたが、福岡市中央区在住の芝夏子（しば　なつこ）さんの「煙草の神様」が佳作に選ばれました。

この作品は、「小説トリッパー」2020年春季号（朝日新聞出版）に掲載されました。


第六回　林芙美子文学賞発表

選考委員
井上荒野
角田光代
川上未映子

受賞作（賞金百万円）
受賞作なし

佳作（賞金十万円）
「煙草の神様」芝夏子

令和2年2月29日に予定していました「第6回林芙美子文学賞表彰式及び記念トーク」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催延期となりました。この文学賞は、令和2年度も行う予定です。募集要項が決まりましたら、ホームページ等でお知らせします。

小冊子「わたしたちのまちの文学」

今回の展示リニューアルに合わせ、小冊子「わたしたちのまちの文学」を刊行しました。小学校高学年以上を対象に常設展示の内容をより分かりやすく紹介した、北九州の文学のあらましを知ることができる冊子です。

無料で配布しており、小学生、中学生、高校生のみなさんにはご来館の際、受付にてお渡しいたします。一般の方でご希望の方は、常設展示ご観覧の際、受付にお申し出ください。

北九州市立文学館文庫16『横山白虹句集』

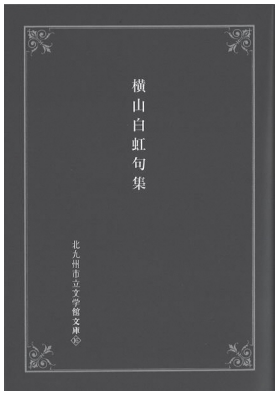
北九州の地から現代俳句を牽引した横山白虹の句集を刊行しました。自選句集三冊（『海堡』『空港』『旅程』）に掲載された全一二三三句を収録。現代俳句協会会長を六期務めた横山白虹の主要作品を手軽な文庫本で味わうことができます。

新興俳句の旗手として活躍した横山白虹は、一九三七年、医師として開業していた小倉で主宰誌「自鳴鐘（とけい）」を創刊しました。戦時休刊しますが、戦後まもなく復刊、読み方を「自鳴鐘（じめいしょう）」としました。今日まで続く北九州を代表する俳句雑誌です。

収録句から

よろけやみあの世の蛍手にともす
ラガー等のそのかちうたのみじかけれ
雪霏々（ひひ）と舷梯のぼる眸（め）ぬれたり
蜂追ひし上衣を肩にして歩く
原爆の地に直立のアマリリス
地球の芯をいつも見つめて無名戦士

【販売】文学館インフォメーション
ブックセンタークエスト小倉本店
093（522）3914



定価　1000円

お祝い

・田中慎弥さん（作家）が『ひよこ太陽』（新潮社）で、第47回泉鏡花文学賞を受賞。

・川上未映子さん（作家）が『夏物語』（文藝春秋）で第73回毎日出版文化賞　文学・芸術部門を受賞。

・松尾スズキさん（作家・演出家・俳優）が『命、ギガ長ス』（白水社）で第71回読売文学賞　戯曲・シナリオ賞を受賞。

令和元年度下半期「偲ぶ会」

・第60回葦平忌
令和2年1月19日
高塔山・火野葦平文学碑前（若松区）

・第23回久女忌
令和2年1月21日
圓通寺（小倉北区）

・第43回森鷗外をしのぶ春の集い
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

久女忌

展覧会開催予告

第28回特別企画展
絵本作家・いわむらかずおの世界（仮）

7月18日（土）～9月22日（火・祝）

文学館リニューアルの記念イヤー第一弾の特別企画展は、絵本作家・いわむらかずおさんの展覧会の開催を予定しています。森で暮らす動物の家族を描いた代表作「14ひきのシリーズ」や「こりすのシリーズ」などは、国内だけでなく、フランス、ドイツ、台湾などでも翻訳されロングセラーとなっています。絵本原画、創作資料などをとおして、いわむらさんのこれまでの足跡と作品を紹介します。

今年の夏は、いわむらかずおの絵本の世界をぜひご覧ください。

主　催　北九州市立文学館
企画協力　いわむらかずお絵本の丘美術館

「14ひきのせんたく」より
© いわむらかずお

北九州市立美術館　北九州市漫画ミュージアム　三館合同企画

SF都市・北九州

日本SF文学クロニクル（仮称）

令和2年10月3日(土)～11月29日(日)

主催（予定）：日本SF文学クロニクル実行委員会（毎日新聞、北九州市立文学館）
総合監修：筒井康隆さん（作家）
展示監修：長山靖生さん（文芸評論家）

日本でSF（Science Fiction）という言葉が一般に定着したのは、一九五九年の「S-Fマガジン」の創刊からといわれています。しかし、SF的な想像力、道具立ては神話・古典世界にまで遡ります。本展では日本における「SF的想像力」の歴史を、古典から現代まで追い、日本における「SF」がどのように生まれ、発展してきたのか、多くの資料とともに紹介します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむをえず、開催を延期・中止する場合がございます。

■寄贈者・提供者

麻生壽々代、井上靖記念文化財団「伝書鳩」編集室、市川市文学ミュージアム、一般財団法人地域創造、北九州中小企業団体連合会、井上智重、井本元義、岩岡中正、大八木あつ子、岡田功、岡山シティミュージアム、大佛次郎記念館、かごしま近代文学館、神奈川近代文学館、株式会社　三人社、株式会社　文學の森、鎌倉文学館、川島由紀子、川中子義勝、北九州市立美術館、北九州川柳作家連盟、北九州をうたう会、北九市立自然史・歴史博物館、木下武久、木村和夫、九州文化協会、九州文學、黒瀬圭子、劇団青春座、福澤徹三、こおりやま文学の森資料館、小倉文化連盟、国立民族学博物館、最相葉月、佐々木博子、佐々木安美、下関市観光スポーツ文化部文化振興課、新宿区立漱石山房記念館、末永直海、杉田重男、全国文学館協議会事務局、仙台文学館、象の森書房、空俳句会　川上義則、寺井谷子、鳥羽市教育委員会、豊島区、中村共子、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、沼津市芹沢光治良記念館、野田宇太郎顕彰会、秦夕美、花書院、原ゆき、姫路文学館、平出隆、福岡子どもの文化研究所付属あかとんぼ、福岡市総合図書館、福岡女子大学、ふらんす堂、文京区立森鷗外記念館、編集工房ノア、北海道文学館、堀江優子、前田あり子、増田連、又吉栄喜、水木洋子市民サポーターの会、南川隆雄、都満州美、宮本苑生、武者小路実篤記念館、森鷗外記念会、森田竹子、柳生じゅん子、山内克士（小原ガイドボランティア代表）、山口公和、山口情報芸術センター、山田稔、山本飛雲、行橋市歴史資料館、與謝野晶子研究所、六花出版、若窪美恵、若杉妙

■提供雑誌

藍、青嶺、馬酔木、あしへい、花鶏、阿蘇、穴生文芸、あん、いのちの籠、沖、海峡派、回遊、北九州文化、九州作家、九州俳句、船団、九大日文、鯨々、月刊俳句界、玄海、こどもの本、scripta、自鳴鐘、新墾、青穂、青嵐、粼、川柳　むらさき、空、タルタ、卓上作法、天籟通信、投稿俳句界、とびうお、西日本文化、虹野、浜木綿、ひびき、ふよう、ぽち袋、八雁、遼、川柳　くろがね、九州文學

2020年4月1日 発行

北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

■ 開館時間
9:30～18:00（入館は17:30まで）

■ 休館日
毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
年末年始

北九州市印刷物登録番号 2009013C